

本院で卵巣癌の治療を受けられた患者さん・ご家族の皆様



～手術時（平成22年1月から令和8年12月まで）に摘出された癌組織の医学研究への使用のお願い～

【研究課題名】

ヒストン デアセチラーゼ

卵巣癌におけるhistone deacetylase（ヒストン脱アセチル化酵素）を中心とした微小環境の解明と新規治療標的の同定*

*ここでの同定とは新規治療標的が何であるかを突き止める行為を指します。

【研究の対象】

この研究は以下の方を研究対象としています。

2010年1月～2026年12月に当院で卵巣癌（腹膜癌・卵管癌・境界悪性腫瘍を含む）と診断を受けられた方

【研究の目的・方法について】

癌は遺伝子の病気だということが最近、明らかになってきました。遺伝子の病気といっても親から子へ伝わっていく遺伝的な病気ではなく、体細胞の遺伝子（例えば胃の細胞や肺の細胞の遺伝子）が量的あるいは質的に異常を起こし、正常な細胞増殖の制御機構が働かなくなり自律的な増殖をするようになると、癌が出来ると考えられています。卵巣に出来る癌（がん）である卵巣癌は、通常手術と抗癌剤によって治療されますが、特に進行や再発した状態では薬で治すことが難しい癌の一つです。昔の抗癌剤は癌細胞だけでなく、正常細胞にも毒性が強いため強い副作用がありましたが、最近の抗癌剤は、癌細胞のみに存在する異常遺伝子が作り出す蛋白質を標的にしており、癌細胞だけを狙い撃ちに出来るようになってきました。逆に、新しいタイプの抗癌剤の効果を高めるためには、患者さんの癌細胞の異常を認める遺伝子が何かはわかっていなければなりません。特定の遺伝子異常をもつ癌に対して特異的に効果が期待できる抗癌剤は、その遺伝子異常を持っている癌には効きますが、もたない癌には効果が余り期待できません。ですから、患者さんから手術時に摘出された癌組織の遺伝子異常を詳しく調べることで、どのような抗癌剤が有効かを予測できると考えられます。医療の現場では、既に特定の癌（例えば乳癌や肺癌）において、特定の遺伝子異常を検査することが、抗癌剤を投与するかどうか決める有力な診断手段となっ

ています。しかし、残念ながら卵巣癌ではそのような分子標的は未だ少なく、薬で癌が治癒するレベルには達していません。

卵巣癌ではヒストン脱アセチル化酵素という物質の発現が高くなっており、ヒストン脱アセチル化酵素を阻害する薬剤が卵巣癌を抑制したという研究報告があります。ヒストン脱アセチル化酵素は 18 種類がみつかっており、人体の中で遺伝子の働きを調整して癌の増悪を促していると考えられています。本研究では、卵巣癌の患者さんから治療目的で摘出された癌組織を用いて、ヒストン脱アセチル化酵素を中心とした遺伝子異常を徹底的に調べる（具体的にいうと DNA、RNA、蛋白質を実験機器を使って調べて、遺伝子の変異の有無や量的異常について調べて異常を認める遺伝子を明らかにします）で、将来卵巣癌の患者さんにはどのような既存の治療薬が効く可能性があるのかを予測できるようにしたいと考えています。さらに、全く新しい異常を認める遺伝子が発見できれば、それを攻撃する新しい抗がん剤の開発にも役立つと考えています。

本研究で得た癌組織や患者さんの診療情報は、ヒストン脱アセチル化酵素やその関連分子の DNA、RNA、蛋白質の変異・発現を調べて、予後や治療効果の予測が可能かを解析します。

研究期間：2023 年 8 月 4 日～2027 年 3 月 31 日

【使用させていただく試料・情報について】

本院におきまして、既に卵巣癌（腹膜癌・卵管癌・境界悪性腫瘍を含む）の治療を受けられた患者さんの癌組織（試料、手術で摘出した組織）を医学研究へ応用させていただきたいと思っております。その際、癌組織を調べた結果と診療情報（例えば治療効果がどうであったかなど）との関連性を調べるために、患者さんの診療記録（情報：病歴、手術歴、抗がん剤治療の治療歴、合併症、副作用、生年月日、カルテ番号 等）も調べさせていただきます。

なお、本研究に患者さんの癌組織（試料）及び診療記録（情報）を使用させていただきますことについては、本学医学部倫理委員会において外部委員も交えて厳正に審査・承認され、大分大学医学部長の許可を得て実施しています。また、患者さんの試料および診療情報は、国の定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従い、特定の個人を識別できないよう加工したうえで管理しますので、患者さんのプライバシーは厳密に守られます。当然のことながら、個人情報保護法などの法律を遵守いたします。

【使用させていただく試料・情報の保存等について】

癌組織（試料）の保存は論文発表後 5 年間、診療情報については論文発表後 10 年間の保存を基本としており、保存期間終了後は、癌組織（試料）は焼却処分し、診療情報については、シュレッダーにて廃棄したり、パソコンなどに保存し

ている電子データは復元できないように完全に削除します。

【外部への試料・情報の提供】

本研究で収集した試料・情報を他の機関へ提供することはありません。

【患者さんの費用負担等について】

本研究を実施するに当たって、患者さんの費用負担はありません。また、本研究の成果が将来医薬品などの開発につながり、利益が生まれる可能性があります。万が一、利益が生まれた場合、患者さんにはそれを請求することはできません。

【研究資金】

本研究においては、大分大学医学部産科婦人科学講座の基盤研究経費を用いて研究が行われます。

【利益相反について】

この研究は、上記の公的な資金を用いて行われ、特定の企業からの資金は一切使いません。「利益相反」とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭および個人を含みますが、本研究ではこの「利益相反（資金提供者の意向が研究に影響すること）」は発生しません。

【研究の参加等について】

本研究へ試料（癌組織）および診療情報を提供するかしないかは患者さんご自身の自由です。従いまして、本研究に試料・診療情報を使用してほしくない場合は、遠慮なくお知らせ下さい。その場合は、患者さんの試料・診療情報は研究対象から除外いたします。また、ご協力いただけない場合でも、患者さんの不利益になることは一切ありません。なお、これらの研究成果は学術論文として発表することになりますが、発表後に参加拒否を表明された場合、すでに発表した論文を取り下げることはいたしません。

患者さんの試料・診療情報を使用してほしくない場合、その他、本研究に関して質問などがありましたら、主治医または以下の照会先・連絡先までお申し出下さい。

【研究組織】

所属・職名	氏名
研究責任者	
大分大学産科婦人科学講座 助教	矢野 光剛
研究分担者	

大分大学産科婦人科学講座 教授 小林 栄仁
大分大学地域医療支援システム・産婦人科分野 教授 奈須 家栄
大分大学医学生物学講座 教授 松浦 恵子
大分大学医学生物学講座 大学院生 財津 純可
大分大学産科婦人科学講座 助教 岡本 真実子
大分大学産科婦人科学講座 医員 青柳 陽子
大分大学産科婦人科学講座 大学院生 麻生 咲季
大分大学産科婦人科学講座 研究助手 足立 佐和子
大分大学産科婦人科学講座 研究助手 大隈 智子

【お問い合わせについて】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住 所：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1

電 話：097-586-5922

担当者：大分大学医学部産科婦人科学講座 矢野 光剛 (やの みつたけ)